

○降雨により水のたまったほ場がみられることから、停滞水を除去するため、額縁排水溝や排水口の点検、手直しを行い、ほ場の排水を徹底しましょう。

1. 畦間かん水

○水分が不足すると落花や落莢が起こり、青立ち株が発生しやすくなります。

○3日以上晴天が続く場合は、土壌の乾きに応じて、畦間かん水を行いましょう。

- ・開花期～9月上旬頃は、大豆の子実が肥大する時期であり、最も水分を必要とします。
- ・畦間かん水は、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を止め、速やかに排水しましょう。

2. 病害虫防除

風が穏やかな時に散布し、周辺へ飛散しないように注意しましょう！

○基本防除(えんれいのそら、シュウレイの場合※)

防除時期		8月6日～11日頃	8月20日～25日頃
対象病害虫		紫斑病、食葉害虫、カメムシ類	
粉剤体系	薬剤名	トライトレボン粉剤 DL	トライトレボン粉剤 DL
	10a 当たりの散布量	3kg(収穫14日前まで)	3kg(収穫14日前まで)
液剤体系 (ラジヘリ防除除く)	薬剤名	ブランドム乳剤 25 +カスケード乳剤	トライフロアブル +トレボン EW
	10a 当たりの散布量	3000～5000倍/100～300L (開花後～7日前まで) + 4000倍/100～300L (収穫7日前まで)	1000倍/100～300L (収穫7日前まで) + 1000倍/100～300L (収穫14日前まで)

・ラジヘリによる基本防除は、1回目：8月10日～12日頃、2回目：8月24日～26日頃です。

※オオツルの場合は、えんれいのそらやシュウレイより、散布時期が1週間程度遅くなります。

○随時防除

7月下旬から生育が旺盛なほ場を中心に、ウコンノメイガによる葉巻きがみられます。

ほ場をこまめに見回り、発見次第、速やかに防除しましょう。

対象病害虫	防除時期	薬剤名	10a 当たりの散布量	使用回数
ウコンノメイガ (ハマキムシ)	～8月中旬	ダントツH粉剤 DL	4kg(収穫7日前まで)	3回以内
ハスモンヨトウ、 アブラムシ類	8月上旬～下旬	トレボン粉剤 DL	4kg(収穫14日前まで)	2回以内
ハダニ類	8月中旬 ～9月上旬	ダニトロンフロアブル	1000～2000倍/150～300L (収穫7日前まで)	1回
葉焼病	7月下旬	Zポルドー	500倍/100～300L	—

帰化アサガオ類に注意！

- ・帰化アサガオ類は繁殖力が旺盛で大豆にからみつくなど、収穫作業や品質などに大きな影響が生じます。畦畔などで見かけたら開花・結実前に、必ず除去してください。

